

夢描く場所

千葉市立高等特別支援学校

学校だより 第3号

令和3年6月14日

「ほうれんそうの お・ひ・た・し」

先日、ビルクリーニング班が検見川小学校へ出向き、職員室前の廊下や昇降口の窓、校長室のカーペット等の清掃を行いました。どの場所も見違えるほどきれいになり、先生方からは「鳥がというよりも子供たちが窓に激突しないように注意しないといけないくらいきれい!」「どうやっても落ちなかったシミがきれいになってる!」等の感嘆の声が上がっていました。また、「特学の子の目指す姿です!」との言葉もいただきました。

ビルクリ班だけでなく、他の作業班も校内での販売や製品の作成、農園芸作物育成の手入れ等々、それは見事に丁寧に取り組んでおり、学校見学にいらっしゃった他校の先生方や保護者の方々に、作業製品の質の高さ、素直で誠実な受け答えの力等を毎回のようにお褒めいただいております。



このように周りからは高い評価を得ている受け答えの能力ですが、昨年度の学校評価アンケートで、生徒自身の評価が一番低かったのが「自分の考えや意見を他の人へ伝えている」という項目で、4点満点中、唯一の2点台2.9Pでした。生徒たちはそこに苦手意識や満足できない思いがあるのが現状です。

報告・連絡・相談の「ほうれんそう」を徹底するということは、学校や社会でも、もう当たり前のこととなっています。「ほうれんそう」の後に、経過結果をもう一度報告するということも主流となってきています。ましてやそこに自分の考えや意見となるとかなりハードルが高くなり、実際には我々、大人の世界でも滞ってしまうことが多くあり、課題となっているところです。

そこで本校では、管理職が先生方に、先生方が生徒たちに、「ほうれんそうの お・ひ・た・し」を心掛けるように伝えています。報告・連絡・相談の際に要領を得なかったり順序がおかしかったりうまく伝えられないことがあるかと思えます。そんなときに、おひたしの「お」怒らない、「ひ」否定しない、「た」助ける、「し」指導するという意識を取り組んでいます。怒られたら嫌な思いしか残らない、否定されたら次は言いたくなくなる、では、困っているところを助けましょう、わからないことは教え(指導し)ましょう、という考えです。少しでも言いやすい雰囲気をつくり、伝えられて良かったという経験をたくさん積んでいくことが何よりも大切であり、次につながる第一歩になると認識しています。

この後、1年生は15日から職場見学が、2・3年生は21日から現場実習が始まります。見学や実習の際には、思っていたようには取り組めなかったり、うまく伝えられなかったりということを反省し、肩を落として戻ってくるかもしれません。学校では、それをしっかりと受け止め「お・ひ・た・し」を徹底していき、今後の生活、次の実習につなげていきたいと思えます。ご家庭でも是非、「お・ひ・た・し」を意識していただけますようお願いいたします。

校長 三宅 健二郎